

## 内分泌・糖尿病内科 糖尿病治療の進歩について

福岡大学病院内分泌・糖尿病内科では、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患等の内分泌疾患、ならびに糖尿病、脂質異常症、高血圧症、肥満症、骨粗鬆症等の生活習慣病や代謝性疾患について幅広い専門的診療を行っています(写真1)。

糖尿病診療の目的は、血糖コントロールを良くすることだけでなく、リスク因子の管理や合併症を抑制し、“糖尿病のない人”と変わらない寿命とQOLを確保することにあります。現在、糖尿病治療薬は経口薬と注射製剤に大きく分けられ、それぞれが作用の異なる薬剤を含みます。「糖尿病治療の進歩」の恩恵がある一方で、現実的には治療の選択肢が多くなりすぎて治療内容に困る場面が生じることもあります。

このような多様性のある糖尿

病診療の中で、私たちは患者さんの病態や合併症、併発症、臨床研究に基づくエビデンスなどをもとに、オーダーメイドで最先端の糖尿病治療を提供できるように日々取り組んでいます。具体的には、血糖降下薬としての内服薬やインスリン療法をはじめ、インスリンポンプ療法や膵島移植、そして自己血糖測定(SMBG)、持続血糖測定(CGM)、フラッシュグルコースモニタリング(FGM)を駆使した最先端の糖尿病治療に積極的に対応しています。そして、定期的に診療カンファレンスを行い、患者さんの病歴や診断、治療法や今後の方針を診療科として決定し、糖尿病に関する最新の情報共有も行っています(写真2)。

また当科に特徴的な取り組みとして糖尿病教室と七隈会、透析予防指導があります。糖尿病教室では、糖尿病について

医師や看護師、管理栄養士や薬剤師、スポーツ科学部といった多職種の見点で講義があり、糖尿病について全体像を把握できるようになります。七隈会は糖尿病週間(全国的に11月頃)にあわせて講演、展示、掲示、血圧・血糖・皮下脂肪などの測定や相談コーナーを設置し、多数の患者さんに参加いただいています。また、透析予防指導は、透析導入の原因として最も多い糖尿病性腎症の重症化予防を目的として、医師・看護師・管理栄養士・健康運動福祉士、医事課など多職種連携によるチーム医療を実践しています。ご興味のある方は、主治医や看護師、内分泌・糖尿病内科外来へ気軽に御相談下さい。



写真2: カンファレンスの様子



内分泌・糖尿病内科 副診療部長

医師 横溝 久  
よこみぞ ひさし

# 福大病院 No.125

## 福大病院 ニュース

Fukuoka University Hospital News

2023  
秋号  
AUTUMN

### 感染制御部

## これからの新型コロナウイルス感染症対策

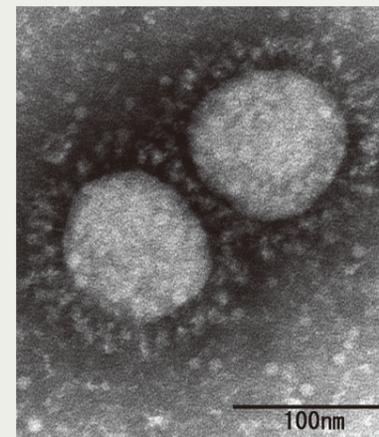
新型コロナウイルス感染症は、今年5月8日に感染症法における位置づけが変更され、インフルエンザ等と同じ5類感染症となりました。そこで、これからの新型コロナウイルス感染症対策について、あらためて確認したいと思います。

最初に確認しておきたいことは、新型コロナウイルス感染症の流行はなくなったわけではないし、これからもなくなる、ということ。ここまで世界的な流行を起こした新興感染症には、近年では2009年に出現したH1N1インフルエンザがありますが、このインフルエンザは現在では季節性インフルエンザとして流行を繰り返しています。新型コロナウイルスも、このイン

フルエンザウイルス同様、これからもヒトの感染症の原因として人類と共にあり続ける、と考えるべきです。

次に確認しておきたいことは、新型コロナウイルスはかぜウイルスではない、ということです。ヒトに病気を起こすコロナウイルスには、かぜの原因となるウイルスと、新型コロナウイルスを含む肺炎を起こすウイルスがあります。新型コロナウイルスは中国で出現した起源株から多くの亜系統が出現し、新たな亜系統が出現するたびに流行の波を繰り返してきました。このウイルスが出現した当初の症状は比較的重かったのですが、流行の拡大とともに免疫を獲得する人が増加したこと、ワクチン接種が普及したこと、および亜系統の進化とともにウイルスの病原性が弱まったことから、現在では肺炎を起こす人は少なくなっています。それでも、ワクチン接種をアップデートしていない人や病気のためにワクチン接種の効果が弱い人などでは、重い肺炎を起こすことがあります。このウイルスは肺炎の原因となるウイルスであることは、認識しておくべきです。

ばいいのでしょうか。ウイルスへの感染を避けることは困難であり、感染を恐れる余り人との交流を避けることには認知症の悪化などのデメリットもあります。いたずらに感染を恐れるのではなく、感染した時に肺炎を起こすのを予防することが重要です。そのためには積極的に新型コロナワクチンの接種を受けることを検討しましょう。日常的な手洗いや場面に応じたマスクの着用により基本的な感染予防を行うことも重要です。ワクチン接種に不安を感じる方もおられるでしょうが、お気軽にかかりつけの診療科にご相談ください。福岡大学病院は、これからも新型コロナウイルス感染症対策を進めていきます。皆様方のご理解、ご協力を、よろしくお願いたします。



新型コロナウイルス(国立感染症研究所提供)

では、どのような対策を取れ



感染制御部 部長

医師 戸川 温  
とがわ あつし

Open! 当院では、各種SNSを開設しています!

福大病院ニュース

公式YouTubeチャンネル  
<https://www.youtube.com/channel/UCYwMO3PwlaDYNVvXTXVUocA>



Facebook  
<https://www.facebook.com/FukuokaUniversityHospital/>



twitter  
<https://twitter.com/FukuokaUnivHosp>

instagram  
<https://www.instagram.com/fukuokaunivhosp/>



福岡大学病院

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45 番 1 号  
TEL (092) 801-1011 (代) URL : <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



## 遺伝医療室

## 遺伝医療について

当院の遺伝医療室では、臨床遺伝学の主要領域である生殖・周産期領域、小児領域、成人領域、腫瘍領域の4領域において、日本人類遺伝学会の臨床遺伝専門医の医師を中心に、各診療科、看護部、薬剤部、検査部などと綿密な連携をとり、日々の遺伝医療を提供しています。

遺伝医療とは、遺伝子検査によりヒトの遺伝情報を調べて、その結果に基づいて疾患の診断、治療、予防を行うことを言います。

近年、遺伝子解析技術の進歩により、遺伝学的診断は飛躍的な進歩をしています。それに伴い、一般臨床においても、遺伝子検査が行われるようになってきています。遺伝子検査は、特定の遺伝子や染色体について何らかの変異が起こっていないかを確かめる検査です。遺伝性の疾患を持っていないか、薬に対する副作用が出やすいかなどを、調べることができます。また、着床前診断や出生前診断、遺伝性疾患の罹患者とその血縁



カンファレンスの様子

者の遺伝情報や家系情報を解析する発症前診断、がんや生活習慣病にかかりやすいかどうかを診断するなど、遺伝子検査は様々な役割を担うようになってきています。さらに、それらの遺伝学的検査やがん遺伝子パネル検査は保険収載されてきています。

遺伝子検査においては、遺伝カウンセリングが重要な役割を果たします。遺伝カウンセリングでは、既往歴や家族歴を丁寧に聴取し、クライアント(遺伝相談を依頼する依頼者)のこれまでの経緯や意向、遺伝性疾患や遺伝診療に関係した問題点や疑問点

について、十分な理解が得られるように時間をかけて丁寧に診療しています。そして、遺伝子検査の必要性だけでなく、クライアントの社会的や心理的な課題の検討、福祉や療育に関する社会資源についてもサポートしています。

現在、遺伝子検査の種類や実施件数は急速に増えてきており、今後もその傾向は継続されると予想されます。そして、遺伝学的診断や遺伝カウンセリングが通常の一般診療において、その役割の重要性が高まってきました。今後も、遺伝医療室としての重要な役割を果たせる様に、遺伝医療体制の構築に尽力していきます。



遺伝医療室 副室長

医師 倉員 正光  
くらかず まさみつ

遺伝医療室に関わるスタッフ

## 災害時に備える取り組み

## 防火防災 WG (ワーキンググループ) の活動について

『天災は忘れた頃にやってくる』といます。災害はいつ起こるかわかりません。当院では、災害時に患者さんの安全を守るため、院内に防火・防災管理等WGを設置し、災害時の対応について活動しています。今回は、WGの取り組みの一部をご紹介します。

## 訓練企画・運営

訓練を通じて実際に被災した際の行動を理解してもらうため、年に2回の防火訓練と年に1回の総合防災訓練、原子力災害医療対応訓練を企画・運営しています。当院は災害拠点病院に指定されており、大規模災害が起こった際には院内の患者さんや職員の安全を確保することに加えて、地域住民の医療救護活動の拠点として、傷病者の受け入れやDMAT(災害派遣医療チーム)の受け入れをふくめた訓練を行っています。

## 病棟アクションカード企画

火災や地震等の災害時に患者さんを安全に避難誘導することを目的としてアクションカードの整備やシミュレーションの企画・実施に取り組んでいます。アクションカードとは、災害直後にその場にいる職員が慌てずに行わなければならない初期対応を簡潔に記載した行動の指針となるカードです。アクションカードを用いたシミュレーション訓練を繰り返し行いいつ起こるか分からない災害に備えています。

## マニュアル検証・改訂

災害時の対応マニュアルとBCP(事業継続計画)の作成・検証・改訂を行っています。病院内において実施した各訓練で見つかった



防火訓練の様子

マニュアルの課題を検討・改訂し、地震や火災が起こった際に備えています。多数傷病者が発生した場合にも職員が即座に対応できるようなわかりやすいマニュアルの作成を目指しています。今年度は令和6年度に予定される新本館の開院にむけて、院内災害対策本部の設置場所、避難誘導員の配置、避難経路、避難場所の見直しを行っています。

## 職員教育

職員教育の一環として、年に5回、全職種に対して火災や災害が起きた際の対応についてクイズ形式で職員の防災知識の向上、啓発を行っています。

クイズの設問には、災害時に患者さんの安全を守り、病院の機能を維持するために職員がとるべき行動について盛り込むようにしています。また、年2回の防火訓練と年1回の総合防災訓練の時期と連動させることで、いつ災害が



防火防災 WG の様子

起こっても全職員が迅速な行動を取れることを目的にしています。

## 防災意識啓発

年4回程度の防災ニュースレターの発行を通じて、当院の職員に防災意識の啓発を行っています。院内火災、地震、水害、土砂災害などの災害発生時に患者さんや職員自身の安全を早急に確保することはもちろん、業務時間内外にかかわらず災害発生時に適切な行動を取ることができるよう情報を届けるように活動しています。また、今年度は令和6年度の新本館開院に向けて、新本館での火災発生時の対応に関する院内教育用動画を制作する予定です。



救命救急センター 副診療部長・副センター長

医師 喜多村 泰輔  
きたむら たいすけ